

# 自己評価書

四日市市立常磐西小学校

## 1 学校づくりビジョンの重点への取組の評価

重点1	わかる授業, 楽しい授業の創造	④・3・2・1
成果と課題	<p>○この研修に取り組んで4年目となり、「学び合い」の値打ちについても理解が深まり、全教職員が、学び合いのある授業づくりという一つの方向に向かって取り組んでいる。講師の助言も一本筋が通っていてぶれないので、分かりやすい。</p> <p>○今年度は、グループやペアでの学び合いについて、理解を深めることができ、国語以外の教科へも学び合いの授業の広がりが生まれていた。</p> <p>○子どもにも落ち着いた学習態度や聴き合う姿勢が育ってきている。</p> <p>○3年生と5年生の国語と算数のCRT（観点別到達度検査）を通して、学年・学級の実態や個々の学習状況を把握でき、全体・個々に対して効果的な指導ができた。また、検査結果をもとに学校全体で話し合うことで、宿題の出し方やグループでの話し合い等、指導方法の改善のための共通理解をもって取り組むことができた。</p> <p>○3年生以上の学年では、チームティーチングおよび少人数授業により、発表・活動などで授業に積極的・主体的に参加できる機会を増やすことができた。また、よりきめ細かな指導に繋げていくことができた。さらに少人数担当教員が学年担当ともなっていることにより、学年集団としての連携がより図りやすかった。</p> <p>○学習支援ボランティア（図書、英語活動、パソコン、習字、リコーダー、1年生支援など）が定着してきており、授業の活性化、効率化、安全性の確保や支援内容の充実を図っていくことができた。</p> <p>○特別非常勤講師（3年リコーダー、3年習字、3、4年水泳）の協力により、専門性を生かした効果的な指導を行うことができた。</p> <p>○学習支援ボランティアは大変助かっている。保護者の組織がしっかりしてきて、自立した活動ができつつあるので、反省を生かしつつ更にそれを進めていきたい。</p>	

重点2	豊かな心とからだ, 感性の育成	④・3・2・1
成果と課題	<p>○主研修（「学び合い」の授業）とリンクしている部分が大きく、子どもたちの思いを大切に聴こうとしている教師の姿勢が見られる。</p> <p>○友達の思いに寄り添って聴くことができる。子どもたちはつながっている。</p> <p>○道徳の授業公開なども毎年行っている。</p> <p>○いじめ調査、年間2回のQ-U調査（学級満足度調査）などを生かして、担任が、一人ひとりと話す機会を作るなど、児童の問題や悩みの早期発見、早期対応に努めた。</p> <p>○電話、連絡帳、家庭訪問などを通して、家庭との連絡・連携を密にするよう努めた。</p> <p>○不登校についての校内ケース会議を必要に応じて開いたことで、担任が一人で悩むことなく、適切な対応をすることができた。</p> <p>○臨床心理士の資格のあるスクールカウンセラーから、専門的な立場からの検査やカウンセリングを受けることができ、保護者のニーズも大きかった。また、担任がスクールカウンセラーに相談しやすい雰囲気があり、専門的で適切なアドバイスをいただけるのでありがたい。</p> <p>○スクールカウンセラーは、保護者のニーズに応えきれないほどの要望があり、勤務日や時間の増加が望まれる。</p>	

重点3	子どもが主体的に取り組む教育活動の創造	4・③・2・1
成果と課題	<p>○生活科、総合的な活動の中で、吉田山を活用した活動を組み、子どもたちも意欲的に取り組むことができた。</p> <p>○年間3回のビオトープ活動では、吉田山の保全活動や自然とのふれあい活動など、趣向をこらした活動ができ、児童・保護者・職員が一体となって楽しむことができた。</p> <p>○生活科や総合的な学習の中で、地域の人との出会いや交流の機会を持つことができた。</p> <p>○学習の場だけでなく、休み時間も吉田山に出かけ、自然とふれあったり遊んだりすることができた。</p> <p>○全校外遊びやなわとびチャレンジなど、全校で外に出て体を動かす機会を確保できている。</p> <p>○毎学期ごとの養護教諭による保健指導や栄養職員による食育、委員会活動での啓発など、基本的な生活習慣や食習慣について子どもたちへ繰り返し指導し、定着を図っている。</p> <p>○児童会活動では、児童が主体となっており、あじさい運動や「とき西っ子」まつりの企画・運営を行うことができた。</p>	

## 2 改善方針

○今後は、「学び合い」を深めるための力をどのように育成するかという目標に向けて、教師が心がけることや、子どもへの指導に取り入れることなどを明確にしたい。例えば、「書く」ことに力を入れていってはどうか。

○学習支援ボランティア活動のさらなる充実・定着のために、今年の振り返りをもとにボランティアとの事前打ち合わせ・活動内容や方法・引継ぎなどを工夫する。

○全校外遊びやなわとびチャレンジが全校的に取り組んだり、子どもの主体的な活動にはなっていない。全校外遊びの意義を考え、委員会を活用したり、全校遊びのときにしかできないような活動を仕組んでいくようにする。